

八王子消化器病院ニュース

第64号

医療法人財団 中山会
八王子消化器病院

— 患者様のための医療 —

日本医療機能評価機構認定病院

〒192-0903 東京都八王子市万町 177-3
TEL : 042-626-5111
www.八王子消化器病院.com

制作 (株) 教育広報社



おおり

HACHIOJI DIGESTIVE DISEASE HOSPITAL NEWS

元号が「令和」に改められてから5ヶ月が経過し、新元号にもすっかり馴染んだように思います。典拠とされる万葉集の歌にある「初春の令月にして、気淑く風和ぐ」時代を期待しつつも私達を取り巻く状況は、消費増税や大型台風等の天災、そして不安定な世界情勢と歌のようにはいかないようです。私個人としては、ラグビーワールドカップにおいて日本代表チームが並み居る世界の強豪を破り快進撃を続けていることに胸を躍らせています。試合会場には行けませんが、調布駅前に設けられた大型ビジョンで観戦していると、グラウンドの熱気が伝わってきます。・・・因みに私は学生時代は歴としたラガーマンでした。

さて当院では、患者様を病院で待つだけではなく、地域に向いて正しい知識を直接お伝えしたいとの思いから、昨年から地域の方々を対象とした健康講座を始めました。その理由の1つとして、信頼性の乏しい医療情報がインターネット等で氾濫していることがあります。数年前に大手IT企業が運営する健康情報サイトに医学的に根拠のない誤った情報が掲載されていたことが問題となりましたが、同様の事例は後を絶ちません。スマートフォン等の普及により、誰もがいつでも簡単に医療情報を得ることができるようになった反面、正しい知識を得ることは以前よりも難しくなったように感じます。そこで、ホームページ等からの情報提供に加えて、対面での質疑応答等を通じて皆様と情報共有できる健康講座の企画・運営を始めました。



八王子消化器病院 健康講座について

八王子消化器病院 病院長
小池 伸定

病院職員による手作りの健康講座にするため、有志のプロジェクトチームを組み、準備を進めて参りました。当初は会場手配や広報活動等の慣れない業務に戸惑っていましたが、完成した案内ポスターをみてチーム一同で「良いのができたね」と自画自賛したことを覚えています。一方、予想を上回る反響のため、募集開始から2日目にして定員に達してしまい、その後にお申込みいただいた多くの方にご迷惑をおかけしてしまつたという反省点もありました。

これらの準備を経て、昨年10月に第1回健康講座を八王子市学園都市センターにて開催しました。当院の専門とする消化器の中でも皆様にとって最も身近な胃をテーマに「知っておきたい胃のハナシ」と題し、医師、内視鏡技師、管理栄養士、医療事務員が各専門の立場から講演しました。

最初に、内視鏡技師から胃の内視鏡検査の概要や内視鏡機器の歴史、最新の内視鏡検査・治療についてお話ししました。次に、私が胃の働きや病気に対する治療法、胃がん検診の大切さについてお伝えしました。そして、管理栄養士からは胃を切った後の食事内容・食べ方の工夫について、最後に医療事務員から胃の治療にかかると費用について説明しました。

会場では、熱心に話を聞いておられる多くの姿が見られ、質疑応答で

第2回 八王子消化器病院健康講座

◎日時：2019年10月26日(土)
14:00～15:40(開場13:30)

◎場所：ザ・ビー八王子(八王子市明神町4-6-12)
※旧八王子プラザホテル

◎定員：90人

◎テーマ：知っておきたい大腸のハナシ

◎講師/演題

- ▼病院長 小池伸定
「知ってほしい 大腸のこと・大腸の病気」
- ▼内視鏡センター 久保加奈子
「内視鏡検査のすすめ(大腸編)」
- ▼放射線科 白土智之
「当院における大腸CT検査(CTC)」
- ▼栄養科 渡邊 咲
「大腸がんを防ぐためには何を食ったらいいの？」
- ▼医事課 青山智子
「大腸の病気がって治療費はどのくらいかかるの？」

は多数のご質問をいただきました。また、アンケートにおいても高い評価をいただき、特に当院を受診したことがない方も参加され、正しい知識を得ていただくという目的を達成することができました。

以上のように昨年、好評をいただいた胃の話に続き、本年度は「大腸」をテーマに第2回健康講座を開催する運びとなりました。大腸がんは内視鏡機器の進化や知見の集積等により、早期に発見し適切な治療を受ければ、その多くは治る病気となった反面、大腸がんで亡くなる方は、増加傾向にあります。その原因の多くは検査を受けていないことによる治療の遅れです。そこで、本講座を通じて「大腸」に関する正しい知識をお伝えし、皆様の健康づくりのお手伝いをさせていただきます。診察室で時々お会いする「もう少し早く受診してくれていれば・・・」と思う方が1人でも減つていただければ幸いです。

もっと知りたい！
 身体 治療 のコト
 病気

上部消化管内視鏡検査・治療について

内視鏡センター 主任 山田 英生

厚生労働省の発表によると、2017年の日本人の死因で最も多かったのは、がん（悪性新生物）であり、全体の約3割を占めています。我が国の全死亡者数134万人のうちがんで亡くなる人は37・3万人といわれ、約3人に1人が、がんで亡くなっている計算になります。特に、胃がん、大腸がん、肺がんは男女ともに高い死亡率となっています。また、近年では日本人の2人に1人は、がん罹患者という報告もあり、がんは特別な病気ではなく誰もが罹り得ると考えられています。当院が専門とする消化器の中でも胃がんは発生率が最も高く、男性の9人に1人、女性の18人に1人が胃がんと診断され、がんの種類別の死亡者数は男性では第2位、女性では第3位と報告されています。一方、胃がんは早期に発見できれば95%以上が治癒するといわれている治療成績の良いがんでもありません。そのためには、早期発見・早期治療が重要となります。

●内視鏡検査について

1805年にドイツのボチニ(Bozzini)が内視鏡の原型である反射鏡を用いて生体内の観察を最初に試みて以来、内視鏡

機器は目覚ましい進化を遂げました。なお、一般的にいわれる「胃カメラ」は1950年に世界に先駆けて我が国で開発されました。それは、軟らかい管の先端に撮影レンズがあり、手許の操作でランプをフラッシュさせて撮影し、ワイヤーで引っぱってフィルムを巻き上げるというものでした。時は流れ今日の内視鏡ビデオスコープでは、ハイビジョンによる鮮明な画像が得られると共に、病変部を拡大して微細な血管や粘膜の表層構造までを観察できるようになったため、早期がんの発見率が飛躍的に向上しました。

「上部消化管内視鏡検査（胃カメラ）は、苦しいから受けたくない」という話をよく耳にすることがありますが、胃がんは早期の段階では自覚症状に乏しいため、例えば症状がなくても定期的に検査を受けることが重要です。その必要性・有用性から、上部消化管内視鏡検査は、胃がん検診の分野においても認められ、八王子市では昨年9月から内視鏡による胃がん検診が開始されました。当院も同検診に参加する医療機関として、市民の皆様には質の高い検診を提供するために日々努めています。一方、診療においては消

化器疾患の専門病院として日本消化器内視鏡学会の指導施設に認定され、上部消化管内視鏡検査は年間約8000件を実施し、また検査で病気が見つかった場合には治療も行っています。

●内視鏡的治療について

内視鏡的治療の分野では従来、高周波スネアと呼ばれる金属の輪で隆起した腫瘍の根元を縛り、高周波電流を流しながら焼き切る治療を行っていました。また、平らな病変に対しては、生理食塩水を粘膜下層に注入しポリプ状に持ち上げて切除していました。1970年から1990年代前半まではこれらの切除方法が主流でしたが、大きな病変や平坦な病変は取り残してしまう可能性がありました。また、大きく切除しようとする胃壁に穴を開けてしまう危険性が高く、一度の治療で安全に切除できる病変の大きさは2cm程度でした。

その後、1990年代後半に2cm以上のがんを開腹手術ではなく内視鏡で切除できないかという考えから考案されたのが、内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）です。

ESDは、病変が粘膜内（および極くわずかな粘膜下層）に限られている場合に適応となります。同治療法は、内視鏡の鉗子口から挿入した特殊なナイフを用いて病変の周囲を切開し、粘膜下層に生理食塩水を注入し、粘膜下層から「はがし取る」方法です。ESDの利点は、大きな病変でも取り残しなく切除でき、病

変の取り残しによる再発が少ないことです。ESDでは開腹による切除と異なり、胃全体を残して以前と同様の食生活を送れるため患者様へのメリットが大きいといえます。なお、当院においてもESDの件数は年々増加しており、また胃がん内視鏡検診による早期発見が早期治療に繋がることで、今後もより一層の治療効果が見込まれています。

当院の内視鏡センターでは、内視鏡機器の進化、内視鏡技術の向上に対応しつつ内視鏡的治療を積極的に取り入れ、安全で苦痛の少ない検査を提供すると共に患者様の不安を少しでも和らげる努力を続けて参ります。

内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD)



※「国立がん研究センター がん情報サービス」web サイトより

患者さまからドクターへ

受け継がれている
患者に寄り添う心

東大和市 在住

中川

緑さん



64

私は、生後八週目で先天性の胆管の病気で、当時最先端だった手術により命を救われましたが、九歳の成長期を迎えると発作を繰り返すようになりました。入院を繰り返すも、治療法がないと言われ、毎回嘔吐と激しい痛みに襲われていました。

十五歳の時、いつもとは違う痛みに襲われました。当時、母が食道がんで通院していた東京女子医科大学病院に連れられ、私の病歴を見た母の主治医が、故羽生先生（八王子消化器病院前々理事長）を紹介してくださいました。緊急入院手術となったのですが、この時が、後に四〇年もお世話になる羽生班（肝・胆・膵を専門とする外科医チーム）との初めての出会いでした。

麻酔に変わった手術でした。予想外の手術をしてくださったのが、今泉先生（現八王子消化器病院顧問・膵臓病センター長）でした。当時から色白の肌と美しい白髪が印象的でした。廊下の遠くからでも緑ちゃん！と大きく手をあげていつも明るく声をかけてくださいました。

この手術をきっかけに、長年苦しんできた病気の検査をしたところ、羽生先生から今なら手術出来ると言われ、すぐに手術をしていただきました。強面なのに優しく、痛い所には決して強く触らず、何も言わなくても痛い箇所をすぐに当てるゴッドハンド。不安を希望に替えてくださった命の恩人です。

同じ羽生班であった鈴木衛先生（八王子消化器病院前理事長）は、どんなに忙しくても優しくいつでもゆったり接してください、まるでくまのプーさんのよ

うでした。

二〇代半ばに入院していた時眠れずに病室を抜け出してロビーの明かりで本を読んでいると、夜遅くまでの激務で息抜きに缶コーヒーを買いに来る新進気鋭の原田先生（現八王子消化器病院理事長）によく遭遇しました。先生は当時から機敏で、何かあると足音無くスツと来てくださって、終わるとボソツと面白いことを言って笑わせて、サツと立ち去るのです。難病の申請を勧めてくださいたり、乙女心が傷付かない様に傷口を縫って（先生命名 乙女縫い）くださいたり。寝る間も無い程忙しい中、患者の気持ちを汲み取って、将来まで考えて最善を尽くしてくださる原田先生に出会えて、本当に良かったと思います。その信頼する原田先生が、八王子消化器病院に移られたのを機に私も追いかけてこの病院にお世話になることになりました。

作ってくださいます。看護師の方々は、私がカブレないテープや消毒綿を準備してください、それぞれのプロの技術を結集して、先生方と連携して処置してくださいる細やかな配慮にいつも感謝しています。

入院生活は、掃除の行き届いた院内で、クラシックのBGMが流れ、心が落ち着いて過ごせました。院内食は、病院とは思えない美味しい食事でも楽しみでした。分かり易く説明してくださいる薬剤師さん、清潔なタオルを毎日届けてくださるヘルパーさん、トイレや床ごみを患者に配慮しながら手際良く綺麗にしてくださいる清掃員の方々、アンケートをとり、すぐに改善していく事務の方々。クリームパンの入荷日時を教えてくださいる売店の方、すれ違う誰もが会釈や挨拶をしてくださいる、気持ちよく過ごせました。

こちらに来てみると、医者一年生当時から貫禄があった鈴木修司先生までも羽生班の精鋭が揃っていて安心したので覚えています。

度々お世話になる放射線技師の方々は、いつも笑顔で毎回何も言わなくても枕とタオルを持って私仕様の特性ベッドを

七年前、原田先生に手術をしていただき、以来、小池院長先生はじめ若手？の先生方にも献身的に

診ていただいています。ここ二年は入院することなく元気で主人とヨーロッパ旅行を満喫してきました。こうして海外旅行を楽しめるのも、ひとえに原田理事長はじめ皆様のおかげです。ありがとうございます。決して八王子消化器病院に足を向けて寝ていません（笑）。

これからも患者に寄り添う、心の通った素晴らしい病院であり続けてくださることを願っております。



若き日の原田先生と

ドクタープロフィール 2019

理事長

原田 信比古 (はらだ のぶひこ)

東京女子医科大学 消化器外科元派遣助教授

専門：◎消化器外科 ◎肝・胆・膵外科

病院長

小池 伸定 (こいけ のぶさだ)

東京女子医科大学 消化器外科元助教

専門：◎消化器外科 ◎肝・胆・膵外科

副院長

齋田 真 (さいだ しん)

東京女子医科大学 消化器外科元助教

専門：◎消化器外科 ◎腹腔鏡外科
分野：◎がん化学療法

顧問

林 恒男 (はやし つねお)

東京女子医科大学 消化器外科元講師

専門：◎消化器外科 ◎食道外科
分野：◎消化器内視鏡検査・治療

顧問

今泉 俊秀 (いまいずみ としひで)

東海大学 消化器外科元教授/東海大学医学部付属東京病院客員教授/東京女子医科大学 消化器外科元助教

専門：◎消化器外科 ◎肝・胆・膵外科

内科医長

森下 慶一 (もりした けいいち)

東京女子医科大学 消化器内科助教

専門：◎消化器内科
分野：◎消化器内視鏡的診断処置

医師

尾崎 雄飛 (おざき ゆうひ)

東北大学医学部 第二外科元医員

専門：◎消化器外科

医師

齋藤 元伸 (さいとう もとのぶ)

東京女子医科大学 第二外科助教

専門：◎消化器外科

医師

伴野 繁雄 (ばんの しげお)

東京女子医科大学 消化器内科元医員

専門：◎消化器内科

医師

柏木 宏幸 (かしわぎ ひろゆき)

東京女子医科大学 消化器内科助教

専門：◎消化器内科

医師

小川 杏平 (おがわ きょうへい)

東京女子医科大学 消化器外科医療練士

専門：◎消化器外科

◎化学療法外来

医師：川上 和之

東京女子医科大学
化学療法・緩和ケア科准教授

◎生活習慣病外来
(膠原病・リウマチ・痛風)

医師：高木 香恵

東京女子医科大学東医療センター
内科 (膠原病・リウマチ・痛風)
講師

◎糖尿病外来

医師：雨宮 禎子

東京女子医科大学
糖尿病センター元講師

医師：大野 敦

東京医科大学八王子医療センター
糖尿病・内分泌・代謝内科兼任
准教授

医師：松下 隆哉

東京医科大学八王子医療センター
糖尿病・内分泌・代謝内科講師



想うこと

身体に悪い物ほど・・・

味覚は五味 (甘味・塩味・酸味・苦味・旨味) で構成され、口の中にある味蕾と呼ばれる味細胞によって感知されます。

一方、代表的な味としての辛味は、実は味細胞とは関係ない痛覚によって起こる味覚で、渋味は舌の粘膜の収縮によって起こるものだそうです。油脂分の味のコクは、幾つかの素材が合わさって生まれる味の重なりで、口の中で噛んでいくうち

に様々な味が広がり、その余韻が長く続くことと いわれます。

故羽生富士夫先生が生前、私に「究極の旨味は何か分かるか」と問われ、答えられずにいると「それは塩と肉の脂身だ」と言われました。私が「何とも身体に悪そうな話ですね」と言うと、すかさず「身体に悪い物ほど旨いのだ」と返されました。偉い先生に言われ、妙に納得したことが思い起こされます。 理事 久野久夫